

平成 26 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	理工学研究科建築学専攻
研究者 (ふりがな)	塩崎太伸 (しおざきたいしん)
タイトル	歴史的住宅地エリアにおける住まいと庭の空間構成に関する研究
助 成 名	工系若手奨励賞
採択金額	600,000 円
<p>研究の背景</p> <p>日本においては、1970～80 年代に郊外新興住宅地における「庭付き一戸建て」ブームがおこり、現在でも一定の需要が継続している。多くの住宅地では 30～40 年が経ち、世代交代がなされ、2 世帯住宅への立て替えや、生活スタイルの変化による庭への増築等がおこなわれている場合もある。また、新築時に想定されていた庭の利用からは逸脱した利用のされ方がなされていると考えられる。本研究ではそうした国内の「庭付き一戸建て」住宅地、および日本が参照していた西欧や欧米の住宅地、またアジアにおける住宅地の現在における「住まいと庭との空間構成の検討」をおこない、これからの「家と庭の関係性」を考察する。</p>	
<p>結果と考察</p> <p>本研究助成によって、研究の初期調査として下記のエリアを視察し、現況を調査することから、住宅と庭との豊かな空間構成を抽出・整理し、今後の研究の基礎的資料とした。</p> <p>イギリス  Port Sunlight (Liverpool 郊外)1888 年 工業村 (モデルカンパニービレッジ) / Runcorn new town (Liverpool 郊外) ニュータウン / The Brow (Liverpool 郊外) 1969 年 歩車分離、第 3 世代ニュータウン、ボンエルフ / Bournville (Birmingham 郊外) 1878 年 工業村 (モデルカンパニービレッジ) / Stevenage (London 郊外) 1946 年 イギリス初のニュータウン / Letchworth (London 郊外)1903 年 初の田園都市 / Welwyn Garden City (London 郊外) 1920 年 田園都市 / Harlow (London 郊外)1947 年 ニュータウン / Hampstead Garden Suburb (London 郊外) 1906 年 初のクルドサック 田園 郊外 / BedZED (Beddington Zero Energy Development) (London 郊外)2002 年 エコタウン / Red House 田園都市住宅地において参照されたと言われる住宅 / Bedford Park (London 郊外)1875 年 初期ガーデンサブバーク</p> <p>ドイツ  Siedlung Bruchfeldstraße (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Westhausen (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Praunheim (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Römerstadt (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung am Lindenbaum (Frankfurt) 郊外団地 / Wohnhausgruppe an der Hügelstraße (Frankfurt) 郊外団地 / Wohnhausgruppe am Marbachweg (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Raimundstraße (Frankfurt) 郊外団地 / Altersheim Hansaallee (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Miquelallee (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Bornheimer Hang (Frankfurt) 郊外団地 / Siedlung Riederwald (Frankfurt) 郊外団地 / Gartenstadt Hellerau (Dresden) 田園都市 / Radebeul (Dresden) 郊外高級住宅地 郊外新興住宅地 / Hackesche Höfe (Berlin) 8 つの中庭を持つ集合住宅と商業施設の複合施設 / Interbau モダニズム郊外団地エリア / Gartenstadt Falkenberg 田園都市 / Großsiedlung Britz-Hufeisensiedlung 郊外団地 / Onkel Toms Hutte 森の中の郊外団地 / Groß Siedlung Siemensstadt 郊外団地 / Siedlung Schillerpaek 郊外団地 / Weiße Stadt 郊外団地 / Wohnstadt Carl Legien 郊外団地</p>	

イギリスにおいては、主にハウードの田園都市構想にもとづく幾つかの郊外住宅地、およびその後の展開としてのニュータウンなどの住宅地の現況を視察した。1戸建て住宅、2世帯用住宅、多世帯用住宅について、住居と専有庭との配置関係のスキームは田園都市構想とそれ以前の工業村計画においてすでに基本形を抽出出来るとともに、その派生系としてその後の計画のスキームを位置づけられる事例が多く見られ、今後検討予定の住宅地においても、それら基本スキームをベースとしてタイプ化出来るのではないかと予測をすることができた。

また、ドイツにおける郊外団地においても、専有庭と住居部との関係を田園都市構想にみられたスキームの派生として検討・分類・整理を行っているところである。

本研究と一部関連した成果として下記の論文発表、書籍出版があげられる。

共著：「敷地境界との関係にみる不整形敷地に建つ住宅作品の平面輪郭—建築と敷地の対応関係に関する研究」日本建築学会計画系論文集、Vol.80、No.709、p.579、2015.3

共著：『応答「漂うモダニズム」』左右社、2015.4 出版予定

結論と今後の課題

世界の郊外住宅地の形成に多大な影響を与えた計画として、イギリスの田園都市計画、ニュータウン計画など、およびドイツのジードルンク、田園都市、郊外住宅地などを視察し、住居部・フロントヤード・バックヤード・道路の空間構成をそれぞれの境界部における植栽やガーデンファニチャーの配置などととも検討した。それらは時代を経るごとに多様性が増しながらも、庭どうしの連続性は同時代的な特徴というよりも設計者によって差異が現れていることが分かった。また、空間構成を幾つかのタイプとして位置づけ、今後の研究の基礎的スキームとすることができた。

今後は、日本各地およびアジアの郊外新興住宅地について、設立時と現況との変化を検討し、人口の減少しつつある郊外住宅地の将来に向けての可能性を提示してゆく予定である。

使用内訳書

費目	内訳	金額
備品1		
備品2		
消耗品	研究資料・書籍 16,859 文具等 2,102	18,961
旅費	イギリス調査旅費 324,182 ドイツ調査旅費 256,857	581,039
その他		
合計		600,000

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。